

上 もくじ

- いちねんせいになつたよ 2
- がっこうとともだち 12
- ひとつぶのたねから 28
- さあみんなでかけよう 42
- だいすきなつ 50
- ^い生きものとなかよし 60
- ひろがれえがお 70
- たのしもうあき 80
- たのしさ^み見つけたよふゆ 94
- もうすぐ2年生^{ねんせい} 104
- わくわくずかん 116**



わくわく ずかん 上	
いえるかな 117	
はなしかた 118	
ききかた 119	
つたえかた 120 121	
きろくのとりかたまとめかた 122 123	5ページ
しせんずかん 124 125	4~33ページ
しじんあそび 126 ~ 128	34~39ページ
どうぐのつかいかた 129	
むかしのあそび 130 131	44~47ページ
あんしんあんざん 132 133	44~47ページ



いちねんせいになつたよ

本単元は、スタートカリキュラムの一環となるように、登下校の安全、学校の一日の流れ、友達作りと、学校が安心して過ごせる場所であることに気付くことを目標としています。



ひとつぶの たねから

上巻では花を中心に育てます。栽培開始時期に合わせて単元を配置し、成長過程を一望できるように、工夫しています。また、花が終わった後に、種ができる様子も丁寧に扱い、命のつながりを実感させます。



だいすき なつ

春からの季節の移ろいを最初に実感できる単元です。校庭探検や、水や土遊びなど、自然体験を中心展開しています。また、夏休み指導など、最初の長期休暇を前に指導に役立つ単元です。



ひろがれ えがお

今回の家族単元は、お手伝いに偏重することがないように、子どもが「喜んでもらいたい」という思いや願いをもって、自発的に家の役割を果たし、自尊感情を深めることができるよう展開を工夫しています。



たのしさ 見つけたよ ふゆ

この単元では、冬の生き物の様子に気付いたり、風などを利用した遊びをしたりなど、野外で元気に遊べるように展開しています。また、伝承遊びなど、地域の人との交流活動も重視した単元です。



がっこうと ともだち

本単元では、学校探検を通して、学校にいる人、設備等に気付き、学校が安心できる場所であること、公共のものの大切にすることなどの基礎を築きます。



さあ みんなで かけよう

春から初夏の遊び場での活動です。自然遊びを行ったり、公共の精神を養ったりします。公園のイラストでは、幼稚園児も遊びに来ているなど、幼保小連携も視野に入れた紙面構成にしています。



生きものと なかよし

上巻では、生き物と触れ合うことから命の温かさを感じるように設定しています。扱う動物は、ウサギをメインに、モルモットやダンゴムシなど、実態に応じて取り組んでもらえるように配慮しています。



たのしもう あき

この単元は、春の遊び場での体験もふまえ、自然の変化から季節が秋に変わってきていくことに気付かせます。その後、秋の実りなど、季節を存分に楽しむことができるよう展開しています。



もうすぐ 2年生

一年の出来事を振り返り、自身の成長を実感する単元です。振り返りでは、KJ法を用いて整理するなどの工夫も示しています。また、園児の体験入学を通して、自身の成長に気付かせるようにもしています。



下 もくじ

- わくわくするね 2年生 2
- おいしい 野さいを そだてよう 6
- レツツゴー 町たんけん 20
- つくろう あそぼう くふうしよう 36
- みんな 生きて いる 50
- もっと 行きたいな 町たんけん 62
- つたえ合おう 町の すてき 78
- これまでの わたし これからの わたし 86
- い きいき ずかん 101**



いきいき ずかん 下		
● たんけん名人になろう 102 103	● 電車やバスで出かけよう 104 105	● 44 ページ ● 42 ページ
● かかわりを広げよう ふかめよう 106 107	● 見つけよう 108	● 18~21 ページ
● しらべよう 109	● くらべよう 110	● 4~5 ページ
● たとえてみよう 111	● 記ろくをまとめてつたえよう 112 113	● 22~31 ページ
● 生きものとふれあおう 114	● 生きもののかい方 115~117	● 22~31 ページ
● そだてたもので楽しもう 118 119	● 作ってあそぼう 120~123	● 119 ページ
● かたづけ 大作せん 124	● 置ぐのつかい方 125	



わくわくするね 2年生

2年生に進級したての小単元として位置づけています。2年生になってやってみたいことや、新1年生を迎えて、してあげたいことを考えるなど、子ども同士の協働の姿勢を養っていくように工夫しています。



レツツゴー 町たんけん

地域を探検する本単元は、春の探検を想定して展開しています。子どもたちが日常でかかわったことのある場所などをもとに探検し、様々なことに気付くことができるよう、紙面でも多様性を担保しています。



みんな 生きている

下巻では、子どもたち自身が世話をできるように、バッタをメイン素材として展開し、命の変化に気付かせるように紙面をダイナミックに使用しています。また、外来生物の扱いなど、留意したい点にも配慮しています。



つたえ合おう 町の すてき

町たんけんを経て気付いた、町の素晴らしいところなどを振り返り、伝え合うことで、より愛着を深め、それを発信していくことを目的とした単元です。町のよさを皆と共有し、協働して発信する展開をしています。



おいしい 野さいを そだてよう

下巻では、野菜を栽培することで、収穫の喜びを感じさせる単元にしています。栽培する素材は、一般的なものだけでなく、地域の特産品に目を向けるなど、地産地消も意識でいるようにしています。



つくろう あそぼう くふうしよう

おもちゃ作り・工夫の必然性を出すため、まずは素材そのもので遊ぶことから始めています。そして、さらに遊びを発展させたいという思いから、見聞きしたことを伝え合い、おもちゃ作りへと展開しています。



もっと 行きたいな 町たんけん

2回目の町たんけんは秋に設定し、季節変化を、自然や人々の生活から気付かせ、春よりも深くかかわりがもてるようになっています。そして、かかわった人のために何かをしたいという思いなど、愛着が深まる様子も示しています。



これまでの わたし これからの わたし

下巻の成長単元は、振り返りの起点を固定化せず、現在自分の得意なことが、どうしてできるようになったかなど、振り返りの必然性を意識しました。また、3年生以上への意欲を喚起し、これからの自分に期待をもてるようにしています。





たんけんバッグに
入ります

野外での使用に配慮した A5 判サイ
ズにすることで、子どもたちの手にも、
もち運びにも使いやすきました。



- 「ひも」がつけられる
ように穴あけ加工を
施しました。



- 穴あけ加工の位置は、
ひもを首から下げる
教科書を見る際、
ひもが邪魔にならないよう
に下側に設けています。



「たんけんブック」は野外に特化した資料的教科書です

教科書上下巻の巻末には、本編で役立つ豊富な資料を掲載し、本編から適宜参照させています。

その巻末資料のうち、特に野外で活用したいものを、「たんけんブック」にも収録しました。

このとき、単純に同じ資料を載せるのではなく、さらに内容を膨らませたり、実物大にしたり、裏地で役に立つものにリライトするなど、たんけんブックが存在する価値を高めました。

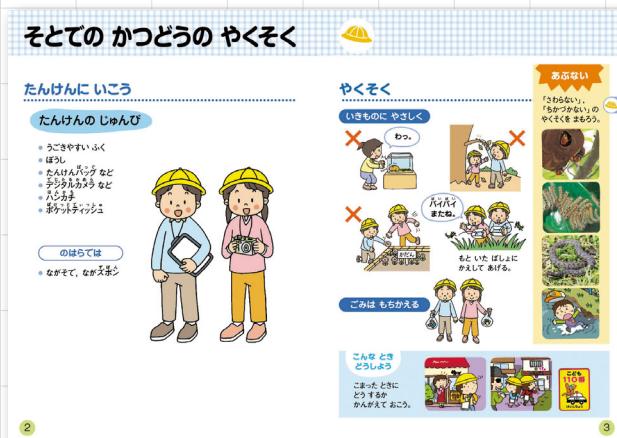
わくわく
ずかん
122 ページ



本編



卷末資料



別冊 P.2~3



別冊 P14



クヌギ

1cm方眼上に
実物大で掲載